



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年8月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ダイオーズ

コード番号 4653 URL http://www.daiohs.com

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大久保 真一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 稲垣 賢一 TEL 03-3438-5511

四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無： 無

四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績（平成29年4月1日～平成29年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	7,078	13.2	399	7.3	400	21.3	239	19.5
29年3月期第1四半期	6,254	1.1	371	△21.0	330	△32.1	200	△33.6

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 229百万円 (ー%) 29年3月期第1四半期 △290百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	17.82	ー
29年3月期第1四半期	14.91	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第1四半期	17,664	11,934	67.6	888.01
29年3月期	16,230	11,973	73.8	890.95

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 11,934百万円 29年3月期 11,973百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	ー	0.00	ー	20.00	20.00
30年3月期	ー	ー	ー	ー	ー
30年3月期(予想)	ー	0.00	ー	24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

29年3月期期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 特別配当 5円00銭

30年3月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 特別配当 9円00銭

3. 平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,393	7.7	789	△0.0	785	6.9	471	1.3	35.07
通期	27,731	6.4	1,994	24.0	1,943	19.9	1,185	14.6	88.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期1Q	13,439,142株	29年3月期	13,439,142株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	40株	29年3月期	40株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期1Q	13,439,102株	29年3月期1Q	13,439,102株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間において当社グループは、以下のような施策を実行しました。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

① 国内部門

国内部門の連結子会社株式会社ダイオーズジャパンでは当第1四半期、直営部門における環境事業商品サービスの提供網を拡大しました。また、毎年恒例の全社一斉キャンペーンを実施した結果、通期計画の達成に向けて順調なスタートを切る事が出来ました。

当社の売上拡大情勢を測る上で重要な要素となる契約顧客件数は、当第1四半期終了時点においては過去最高件数を更新し、その結果、当期の売上高については29億70百万円(前年同四半期比11.4%増)となり、7期連続の増収を達成し、第1四半期連結累計期間における過去最高の実績となりました。売上高については、期初計画比103.2%と計画を上回る情勢で推移している事から第2四半期以降も順調に増加していく事が見込まれます。

一方、利益面においては、期初に計画していた新規額獲得予算を大幅に上回る実績を達成した事から、契約時に必要な機器、備品等の購入費用が計画値よりも大きく上振れし、売上拡大の為に販売促進費用は計画以上の支出となりました。しかし製販一体の強みを生かした自社物流網の見直し整備を促進させた結果、「のれん」及び「顧客関連資産」償却前の営業利益では2億72百万円(前年同四半期比5.6%増)となり、過去最高を更新しました。なお、「のれん」及び「顧客関連資産」償却後の営業利益については、期初計画比100.4%とほぼ計画通りに進捗し、2億45百万円(前年同四半期比2.8%減)となっております。当社の様な反復継続販売においては、効果的な販売促進費用の積極投資は将来の売上と利益の拡大に直結する先行投資であり、当第1四半期における積極投資は第2四半期連結累計期間以降の業績向上に貢献する事となります。

② 米国部門

米国部門の連結子会社Daiohs U.S.A., Inc.においては、以下のような施策を実行しました。

米国のマクロ景気は金融緩和による影響もあって堅実な状況が続いております。全米平均失業率も当第1四半期末時点で4.4%と、米国で完全雇用とされる水準の5.0%を大きく下回り、米国全般で人手不足の様相が顕著になってまいりました。一方、国際的な原油価格低迷に伴い、シェールオイル産業などの影響が大きいテキサス、オクラホマ両州では前年まで局地的な景気後退がありました。当該地域でも景気は安定してきており、全米規模でマクロ景気状況は良好となっております。

そのような環境下、当社米国部門では2024年3月期までに全米展開の概ね完成と年商2億5千万ドル到達の長期目標を掲げており、当期は従来型のオフィスコーヒーサービス(OCS)事業に加え、拡大版OCS事業のノウハウ取り込みと事業モデル整備に着手いたしました。

その第一歩として、6月にワシントン州シアトル市を本社とするBlue Tiger Coffee Inc.を株式買収し、Daiohs U.S.A., Inc.の子会社といたしました。Blue Tiger社の事業は従来のOCSにプレミアム感を充実させ、スナックやフルーツ、サラダなどの賞味期間が短い商品も幅広く揃えて提供するもので、ハイテクや金融など人材獲得競争の激しい業界では比較的安価な従業員福利厚生として強い需要が見られるものです。当社が行っていた従来型OCSとは共通する部分もあるものの、顧客サービスや運営ノウハウが大きく異なることから、当面は別会社として運営をして行く計画です。

その他の既存拠点でも、モデル売上未到達拠点を中心に営業人員を増強して売上伸長を図った結果、売上高はドルベースでは11.9%増となり、円換算では41億10百万円(前年同期比14.5%増)となりました。

一方、利益面では全般的な運営効率の向上などが新規顧客獲得のための人件費増加を補う以上の効果をもたらしたため、営業利益は1億89百万円(前年同期比22.5%増、ドルベースでは19.8%増)となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は70億78百万円(前年同四半期比13.2%増)、売上総利益は40億46百万円(前年同四半期比13.2%増)、営業利益は3億99百万円(前年同四半期比7.3%増)、経常利益は4億0百万円(前年同四半期比21.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億39百万円(前年同四半期比19.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて14億34百万円増加の176億64百万円となりました。これは主に「顧客関連資産」が12億62百万円「工具、器具及び備品」が1億87百万円増加したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて14億73百万円増加の57億30百万円となりました。これは主に「短期借入金」が15億66百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べて39百万円減少の119億34百万円となりました。これは主に「為替換算調整勘定」が10百万円、「利益剰余金」が29百万円減少したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は概ね予定通りに推移しており、第2四半期連結累計期間及び通期の業績につきましても、現時点では、平成29年5月15日に発表いたしました業績予想と変更はございません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,031,528	2,695,262
売掛金	2,780,491	2,879,770
リース投資資産	325,225	338,193
商品及び製品	1,062,755	1,138,135
仕掛品	4,321	3,892
原材料及び貯蔵品	121,190	114,583
繰延税金資産	122,958	46,978
その他	314,893	390,868
貸倒引当金	△21,076	△22,629
流動資産合計	7,742,289	7,585,055
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	379,644	383,632
機械装置及び運搬具(純額)	490,441	544,150
工具、器具及び備品(純額)	2,232,547	2,420,246
レンタル資産(純額)	1,386,275	1,421,859
土地	646,027	758,456
建設仮勘定	38,802	38,963
有形固定資産合計	5,173,739	5,567,309
無形固定資産		
のれん	121,491	101,477
顧客関連資産	2,441,634	3,703,742
その他	53,174	61,618
無形固定資産合計	2,616,300	3,866,838
投資その他の資産		
投資有価証券	212,836	211,786
繰延税金資産	92,085	88,625
その他	412,922	364,672
投資損失引当金	△19,391	△19,391
投資その他の資産合計	698,452	645,693
固定資産合計	8,488,492	10,079,841
資産合計	16,230,782	17,664,896

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	554,070	638,283
短期借入金	1,035,330	2,602,000
1年内返済予定の長期借入金	242,330	241,920
未払法人税等	142,726	36,686
未払費用	425,388	405,377
繰延税金負債	—	12,131
賞与引当金	207,180	100,361
その他	813,297	870,302
流動負債合計	3,420,323	4,907,063
固定負債		
長期借入金	540,568	534,421
繰延税金負債	60,285	61,000
資産除去債務	36,917	37,094
その他	199,108	191,291
固定負債合計	836,880	823,807
負債合計	4,257,203	5,730,870
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051,135	1,051,135
資本剰余金	1,129,434	1,129,434
利益剰余金	9,454,723	9,425,429
自己株式	△46	△46
株主資本合計	11,635,246	11,605,952
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,362	6,753
為替換算調整勘定	331,968	321,320
その他の包括利益累計額合計	338,331	328,073
純資産合計	11,973,578	11,934,026
負債純資産合計	16,230,782	17,664,896

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	6,254,397	7,078,288
売上原価	2,679,321	3,031,537
売上総利益	3,575,076	4,046,750
販売費及び一般管理費	3,203,126	3,647,569
営業利益	371,949	399,181
営業外収益		
受取利息	828	84
受取配当金	771	512
仕入割引	4,798	3,911
持分法による投資利益	—	2,789
債務勘定整理益	1,776	4,104
その他	4,859	4,279
営業外収益合計	13,034	15,681
営業外費用		
支払利息	8,710	12,251
持分法による投資損失	6,457	—
為替差損	39,068	808
その他	100	813
営業外費用合計	54,335	13,872
経常利益	330,648	400,989
特別利益		
固定資産売却益	6,289	619
特別利益合計	6,289	619
特別損失		
固定資産売却損	96	—
固定資産除却損	0	3,855
特別損失合計	97	3,855
税金等調整前四半期純利益	336,840	397,753
法人税、住民税及び事業税	99,417	66,516
法人税等調整額	36,996	91,749
法人税等合計	136,414	158,266
四半期純利益	200,425	239,487
親会社株主に帰属する四半期純利益	200,425	239,487

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	200,425	239,487
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△629	390
為替換算調整勘定	△487,544	△9,772
持分法適用会社に対する持分相当額	△2,898	△876
その他の包括利益合計	△491,072	△10,258
四半期包括利益	△290,646	229,229
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△290,646	229,229
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,663,281	3,591,100	6,254,381	16	6,254,397
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,073	—	3,073	△3,073	—
計	2,666,354	3,591,100	6,257,454	△3,056	6,254,397
セグメント利益	252,306	154,580	406,886	△34,936	371,949

(注) 1 調整額の内容は以下のとおりであります。

売上高

(単位:千円)

非連結子会社からの利息収入等	16
連結消去	△3,073
合計	△3,056

セグメント利益

(単位:千円)

全社費用(注)	△132,432
連結消去	97,496
合計	△34,936

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の営業費用であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	日本	米国	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,967,338	4,110,757	7,078,096	192	7,078,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,208	—	3,208	△3,208	—
計	2,970,547	4,110,757	7,081,304	△3,016	7,078,288
セグメント利益	245,150	189,427	434,577	△35,396	399,181

(注) 1 調整額の内容は以下のとおりであります。

売上高

(単位:千円)

非連結子会社からの利息収入等	192
連結消去	△3,208
合計	△3,016

セグメント利益

(単位:千円)

全社費用(注)	△139,179
連結消去	103,783
合計	△35,396

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社の営業費用であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、純粋持株会社である当社を報告セグメントの「日本」に含めていましたが、日本国内の事業会社である株式会社ダイオーズ ジャパンの業績を明確にするため、当四半期連結会計期間より「調整額」の区分に変更することとしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益の算定方法により算定したものを記載しております。